

舍利和讃

沙羅林中円寂塔三世の諸佛ことごとく

非滅なれども滅ありと示現したもう処なり

俱尸那城には西北方跋提河には西の岸

沙羅双樹の間にて純陀が供養を受けたもう

善達賢聖天人衆十方界より飛び来り

供養海雲満ちみちて十二由旬ひまもなし

世間もとより常になし是をぞ生死の法と云う

生をも滅をも滅し終え寂滅なるをぞ楽とする

一切衆生ことごとく常住佛性備われり

佛は常に世にいます 實には変易ましまさず

二月十五の朝より此等の妙法説き終えて

漸く中夜に至るほど頭を北に臥したもう

娑婆の一化は此時に永く隔たり給はば

栴檀煙り尽きおえて舍利を分ちて去りば

慧日既に暮れおえて生死の長夜闇深し

如何なる便を得てしかば輪廻の里をば離るべき

釋迦牟尼佛の御名聞けば阿毘跋致に至るなり

更にも云わず真ごころに佛の功德讃歎せん

如来証涅槃 永断於生死 若有至心聽

常得無量樂 南無釋迦牟尼佛

為 發菩提心 莊嚴国土

為 (一) 願いごとくお書き下さい (二) 具休例

住所 氏名 年月日

大般涅槃經 大圓寂

大般涅槃經 二月十五日涅槃に臨まる

遊行經「別煮 栴檀樹茸 世所珍奇 獨奉二世尊」

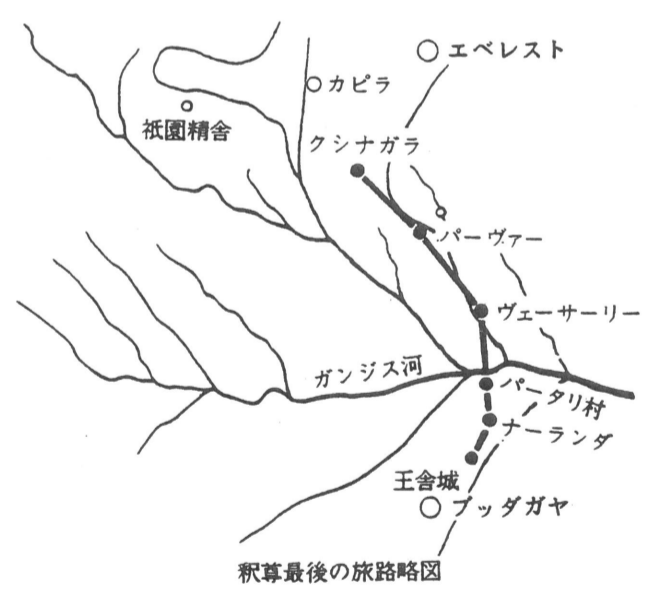
准陀 (旧に純陀) スーカラ マツタバ 佛料理トリップ

大唐西域記卷六の四 拘尸那揭羅國

沙羅樹林 摩耶夫人が佛を哭せる處

迦葉尊者・如来を茶毘せる處

阿難尊者・羅怙羅・有餘依涅槃・無餘依涅槃・体失往生・不体失往生



○四大佛蹟 ●ルンビニー ●佛陀伽耶 ●サルナート(鹿野園) ●拘尸那揭羅

「生きとし生ける者は、みなすべて死なねばならない。世にたぐいなきこの師、大いなる如来、正覺者も逝き給ふた」(遊行經)

「心は人を佛にし、また畜生にする。迷って鬼となり、悟って佛となる。弟子たちよ、この教えのもとに相和し、相敬い、争いをおこすことなく、水と乳のように和合せよ、水と油のように

はじきあわされ。この教えの通りに行はない者は私にあっていながら、私に會はず、私と一緒にいながら遠く離れている人である。この教えの通りを行う者は、たとえ私から遠く離れて

いても、私と共にある人である。」(般泥洹經)

「時將に過ぎなんとす。我れ滅度せんと欲す。是れわが最後の教誨する所なり。」(遊行經)

